



# テーマ「私たちが求める人間関係を築くために・・・」

副題「～身近なネット問題を通して考える～」

実施主体：岐阜県中津川市立苗木中学校第3学年（平成26年度）

協力団体：岐阜県中津川市立苗木中学校PTA・岐阜県教育委員会東濃教育事務所

## 《取組の概要》

平成26年度第3学年有志で組織された【総合プロジェクト】（「1 本事業に取り組んだ理由」にて詳細）のメンバーが、「学校生活の過ごしにくさは、自分たちの人間関係が非常に不安定であることに起因している」という問題点に目を向け、自分たちにできることを考え、活動を始めた。まず、全校にアンケート調査を実施した。この問題は、自分たちの学年だけではなく、学校全体の問題であること、人間関係を不安定にさせる大きな要因として、インターネットやSNSの利用があることを明らかにした。そこで、第3学年で、「自分たちたちが求める人間関係を築くために」をテーマとして、自分たちに何ができるか話し合いを重ね、「苗木中学校3年生アピール」を作成し、研修旅行先の広島でそれを誓った。

次に、「苗木中学校3年生アピール」をもとに、学級活動の時間に全校で話し合いを行うなど、全校の問題意識を高める工夫を開始した。平成26年度の「ネットに関するアンケート」では、平成25年度実施の結果よりも、自由に使えるインターネット機器の所持率の低下、利用時間の減少、トラブルの減少等が見られた。

また、第3学年の動きと併せて、PTAでも「インターネットの利用」に関する講話（保護者参加率98%）やその講話をもとにした話し合いを重ねてもらい、平成26年度4月のPTA総会で、「苗木中学校PTAアピール」を採択した。生徒だけではなく、保護者も同じ方向性で活動をしている。

## 1 本事業に取り組んだ理由（課題を含めて）

第3学年生徒が第1学年時に、「総合プロジェクト」という有志の活動チームを組織した。当初は、リーダーとして活躍できる力をもっているにもかかわらず、その力を発揮しきれない生徒たちを活躍させるために企画した取組であった。まずは、第1学年時の文化祭の取組を契機に、「感謝」の気持ちを表す活動から始めた。学校での生活は、一見安定して見えたが、実は、陰口を言われて苦しんでいる生徒がいたり、保健室へ頻繁に通う生徒がいたりするなどの問題を抱えていた。総合プロジェクトのメンバーに、「学校生活の過ごしにくさは、不安定な人間関係に起因する」ことに気付かせ、自分たちの力で改善させていきたいと考えた。彼らの企画力と行動力なら、「身近なネット問題」を核として、【私たちが求める人間関係を築くために】をテーマに話し合いを重ね、自分たちのできることが見つけられると考えた。また、PTAの方が、家庭で抱えている問題や社会で問題となっていることの深刻さを真剣に捉え、歩調を合わせて活動することに賛同してもらえたことも大きかった。インターネットに関する問題だけに焦点を当てるのではなく、「今後の自分の生き方」と併せて考えさせる方が効果的であると考えたことが本事業に取り組んだ理由である。

## 2 事業展開



1. 平成24年度に、「総合プロジェクト」を組織し、自分たちで「企画・立案・準備・実施・まとめ」までを行う活動で得られる充実感や達成感を体験した。
  - ・「国道でのあいさつ運動」「校内奉仕作業」「地域清掃」等、地域や学校に貢献でき、感謝を表現できる活動を「総合プロジェクト」の企画・立案・準備をもとに、学年全体で実施した。
2. 平成24年度末に、来年度も、引き続き「総合プロジェクトによる自主的な取組」を行っていくことを確認した。
  - ・年度をまたいで活動が継続するように、まとめを行い、次年度の活動をイメージさせてから平成24年度を終了した。
3. 平成25年度のスタート時、新たな活動を模索している生徒に、「インターネットに関する問題」を教員側から提起した。
  - ・これから、2年後の卒業を目指して、学校を動かし、自分の進路を切り拓いていく上で、この問題に取り組むことの意味を説明した。
4. 「総合プロジェクト」メンバーの賛同を得て、取組がスタートした。
  - ・「私たちが求める人間関係(相手の心を思いやり、なおかつ自分の気持ちや意見を直接伝えることができ、受け入れることができる平等な関係)を求めるために・・・」をテーマにアンケートを実施した。
  - ・アンケートの作成、各学級へアンケートの実施依頼、集計、分析を自分たちで行った。(活動した時間:朝の始業前と昼休みのみ)
5. アンケート結果をもとに、「総合プロジェクト」で話し合いを実施した。学級で話し合うべきことについてのたたき台を作成し、その後、「学級」での話し合いを実施した。
  - ・アンケートを実施し、分析したところ、自分たちの学年だけではなく、全校生徒が、インターネットにかかわる問題に直面していることが分かった。
6. 「学級」で話し合われたことをもち寄り、「総合プロジェクト」で「苗木中学校3年生アピール」の原案の作成に取りかかった。
  - ・「学年」で話し合われた時に、全員が討論に参加したくなるような内容(ネットを利用したい人が反対意見を述べたくなるような内容)で原案を作成した。
7. 平成25年度12月に、PTA主催保護者対象のインターネットの利用に関する講演会を実施した。(参加率98%)
8. 平成25年度後半に、生徒対象のインターネット利用に関する講演会(保護者講演と同講師)を実施した。
  - ・自分たちが今話し合っている内容が、時事的であり、かつ必要とされる内容であることが再確認できる講演内容となるように、講師に依頼をした。
9. 平成26年度4月、保護者アンケートをもとに作成された「苗木中学校PTAアピール」がPTA総会で採択された。
  - ・保護者の動きを生徒が知り、保護者も「インターネットにかかわる問題」を重要視していることを生徒が認識した。



10. 「苗木中学校3年生アピール」の原案をもとに、「学年」での話し合いを2回実施し、修正案を採択した。
11. 完成した「苗木中学校3年生アピール」を様々な場面で宣誓した。
12. このアピール文をもとに、全校でこの問題について話し合い、再度アンケート調査を実施したところ、インターネットの利用時間の減少等の効果が見られた。

### 3 事業の成果(効果)

◎自分たちで考え、議論した問題であるために、インターネットにかかわる問題への意識が高まった。

- ・利用者相互でしか知り得ない内容、例えば、「〇〇さんが、無断で写真を掲載している。削除させて欲しい。」といった情報が教師側に入り、適切な指導をすることができた。
- ・インターネット上のやりとりが原因となるトラブルが減り、精神的不安定さで保健室を利用する生徒が激減した。
- ・自らスマートフォンを親に預けるなど、使い方を考える生徒の姿も見られた。
- ・インターネットの利用時間(メールの送受信を含む)の減少が見られた。

### 4 事業を成功させるためのポイント

- ・提案する側の生徒を本気にさせることが重要である。本気にさせるために、堂々と提案できる「組織」や「時間」を教員側が確保しなければならない。
- ・インターネットに関しては、利点も多く、その利用については賛否両論、様々な意見があっても当然、という構えが必要で、インターネットの利用禁止や制限を目的とした議論は無意味であり目的外である。また、一部の生徒だけで作ったルールや大人が作ったルールを一方向的に提示しても意味がないと考える。よって、インターネットの利用に関する内容を、問題として取り上げるには、全員を議論に巻き込むことが重要である。
- ・インターネットそのものだけではなく、その利用の先に見えるものについて考えさせることが重要である。形として残る「苗木中学校3年生アピール」を作ることが目的でもなければ、内外にアピールすることが目的でもない。あくまでも、生徒自身が自分たち自身の問題として捉え、この問題についての話し合いに全員が参加することが目的である。そのためには、話し合うべき価値のあるトピックをいかに具体的に示せるかが鍵となってくる。

### 5 今後の展開(継続・発展させていくために)

- ・ネットに関する問題を学校全体の問題として生徒会執行部で取り上げ、学校全体のアピールを作る。
- ・中学生が小学校へ「講話」に行き、未来の中学生に対して、この問題について一緒に考えてもらう。
- ・作成した「苗木中学校3年生アピール」に対する認知度を高め、新鮮さを保つために、学級活動や学年集会等を年に数回開き、自分たちの問題として考える機会を設ける。(生徒自身が問題提起できるように、教員のサポートが必要)
- ・常に新鮮さを保つための一つの手段として、ネット問題に関する最新情報を学ぶ機会を年に1度は設ける。

### 6 参考資料等

・「苗木中学校PTAアピール」「苗木中学校3年生アピール」の全文は、下記学校ホームページに掲載。岐阜県中津川市立苗木中学校ホームページアドレス：<http://www.city.nakatsugawa.gifu.jp/kyouiku/naegijh/>